



令和 8 年 7 月 3 日
海 上 保 安 庁

JICA 課題別研修(海図作製技術コース)を開講

～ アジアをはじめとする7カ国への国際貢献 ～

令和8年7月5日(日)～12月18日(金)の約6か月、独立行政法人国際協力機構(JICA)と協力し、アジア等から8名の水路測量に従事する若手技術者が参加する海図作製のための水路測量技術向上を目的とする研修を開講します。

水路測量の技術を学んだ研修員の多くは、帰国後、各国水路当局で水路測量のエキスパートとして活躍し、要職を務めるなど、我が国のパートナーとして水路業務の国際的な連携強化と発展に寄与しています。

○ 研修概要

本研修は50年以上の歴史を有し、昭和46年から(新型コロナウイルス感染症の影響により2回中止を経て)、今年で54回目の開催となります。

約6か月の研修期間で、研修員は、海図作製に必要な水路測量の理論及び実務を学び、修了後は国際基準に基づく水路測量技術を習得した証となる水路測量国際認定B級^{※1}が授与されます。

これまでに47カ国から480名の修了生を輩出し、修了生の多くが、帰国後、各国水路当局で水路測量のエキスパートとして活躍し、要職を務めるなど、我が国のパートナーとして、水路業務の国際的な連携強化と発展に寄与します(主な各国要職経験者については別紙参照)。

※1 水路測量等の国際基準を定める国際委員会(IBSC)が認定した水路測量技術者養成コースの修了者に付与される資格で、国際A級、国際B級の2つがあります。国際B級は、水路測量を全般にわたり実施可能な実務レベルの技術者の養成を目標としており、全世界で27カ国33コースがあります(令和8年2月時点)。

○ 研修参加予定者(7カ国8名)

カンボジア2名、パキスタン1名、フィリピン1名、スリランカ1名、ベトナム1名、バヌアツ1名、シンガポール1名^{※2}

※2 シンガポール海事港湾庁(MPA)の職員1名は、シンガポール水路部と海上保安庁海洋情報部の交流を円滑に進め、両機関の水路測量技術の向上及び人材育成に資することを目的とする「シンガポール水路部・海上保安庁海洋情報部交流フレームワーク」(令和7年6月2日成立)に基づき、オブザーバーとして本研修に参加します。

○ 主な日程、カリキュラム、測量実習、乗船実習等 別紙参照

○主な日程

実施予定日	実施予定場所	内 容
7月8日(水)	海上保安庁海洋情報部	カントリーレポート発表会
10月6日(火)～11月5日(木)	大分県別府港	測量実習
11月10日(火)～13日(金)	東京湾～名古屋港	測量船「光洋」による乗船実習
12月17日(木)	JICA 東京センター	閉講式

上記以外の期間は、海上保安庁において海図作製に必要な水路測量の理論及び実務に関する講義を学びます。

○主なカリキュラム

- (1) 海図作製に必要な理論と実務に関する講義（測地学、潮汐、測深等）
- (2) 海図作製に必要なデータ収集のための測量実習（大分県別府市）
- (3) 海上保安庁の最新鋭測量船「光洋」による乗船実習（東京至名古屋）
- (4) 航行安全・防災のための講義、研修旅行（宮城県石巻市の被災施設見学等）

○令和7年度に実施した本研修（測量実習、乗船実習）の様子



【参 考】

本研修を修了した主な各国水路当局要職経験者

研修参加年	名 前	役 職
1983年	Vice Admiral Charin Boonmoh	元タイ水路部長
1992年	Rear Admiral Dato' Hanafiah bin Hassan	元マレーシア水路部長
1994年	Commodore Muhammad Arshad	元パキスタン水路部長
1998年	Mr. Justo Nicholas Lyamura	元タンザニア水路測量部長
2006年	Mr. Luma-Ang Cater Sadien	現フィリピン水路部長